

第 136 回エネルギー問題に発言する会 座談会議事録

報告作成 針山日出夫

【座談会概要】

日時、場所：平成 25 年 9 月 19 日 16 時～18 時 @NUMO 会議室
座談会演題：「原子力の安全と利用を促進する会（促進会）」の設立趣旨と
今後の活動計画などについて

講師：山口篤憲氏（「促進会」準備会幹事）

座長：金氏 顯（エネルギー問題に発言する会 代表幹事）

参加者：会員 43 人

講演概要：山口氏より促進する会の設立の背景、設立趣旨、組織運営計画、活動方針などについて約 1 時間程の説明があった。その後、参加者から活発な質問等があり原子力推進に向けての活動のあり方を中心に意見交換がなされた。以下に講演と意見交換の要点を示す。

【講演の要点】

- 設立の背景と現状を危惧する関係者の思い
促進する会を設立して実践的に活動開始をせねばと考えた背景的要因の代表例として、①福島復興が遅々として進まない根本的要因として低すぎる制限線量（＝目標とする年間線量）があること、②原子力規制委員会の行動や判断は米国 NRC と比較すると客観的審議の欠如や専門性ある幅広い議論の欠落など委員会並びに行政官として問題があること、③原子力に関する正しい情報伝達が国民各層になされていないこと などがあ
り国民や原子力関係機関に対する発信行動を取るべきと考えた。
- 現下の重要問題へのアプローチ
放射能による環境汚染に関する問題の解決方策（含、風評被害の軽減や抜本的な復興施策の提言）、原子力がなくてはこの国は立ち行かないことを解ってもらうための方策、安全規制議論を現実的な安全問題の解決へ導くための具体策などは、実践的行動しか無いと考えている。
- 会の狙いと活動方針
重要課題分野は以下の 5 項目で、③は最重要と認識。
 - ① 福島復興・復旧
 - ② 日本経済の再生
 - ③ 民間の発信力の育成（サイレントマジョリティーの意見を顕在化し、原子力政策や規制のあり方について関係方面へ提言する）
 - ④ 商工と技術の橋渡し（地域別／テーマ別に各種経済団体、商工団体と意見交換し多くの認識と価値を共有できる関係構築を目指す）

⑤ 規制と産業界の関係改善

□組織構想

企画運営委員会の下にいくつかの部会（例えば、福島復興部会、技術部会、放射線部会、国際部会、商工技術交流部会、広報部会、提言部会等）を設置した上で、WEBプラットフォームを構築して会員との意思疎通と交流の輪の構築を図り効率的に組織を動かし、関係団体・関係機関へ情報提供や政策提言を実施してゆく構想。

□運営構想と3本柱

原子力をメインテーマとして、技術・人材・情報の自律的交流の場を設けて、原子力安全技術と利用技術の促進を目指す。

①技術と商工の交流②人材交流 ③情報発信・提言が3本柱で、「促進会」の提供するサービスとして各分野の交流が建設的に促進される場と情報を提供していく。

□今後の予定

広く賛同者を集め、今年秋には一般社団法人として立ち上げたい。その後当面の重要課題（破砕帯問題、再稼働、規制要件、福島復興復旧支援、40年運転規制）と取り組む予定。

□設立趣意書と発起人（配布資料で説明あり。内容省略）

【質疑と意見交換の要点】

座談会に参加した会員からは率直な質問・意見が出されたが、基本的にはSNWとして促進会を支援し関係者を鼓舞する趣旨での発言であった。

以下に発言内容を整理し列記する。

- － 本件構想の固まり具合と組織活動の詳細構想
- － 既存の推進側団体・組織との協調連携の仕方
- － 促進会の組織としての性格付けと方向性（国民運動、ファンクラブ等）
- － 入会要件、目標会員数と組織運営費、予算規模、事務局人員規模等
- － WEBプラットフォームの設計と活用方策

尚、最後に出席者有志（ほぼ全員）が「促進会」への賛同者登録をした。

以上